

学校だより



ふれあい

真実求めん からだ鍛えん 心正さん

令和6年3月18日 NO.9

水戸市立第五中学校

第62回卒業証書授与式

3月11日に第62回卒業証書授与式を挙行政いたしました。新型コロナウイルス感染症の制限も解除され、在校生が参加する形で卒業証書授与式は、4年ぶりの開催となります。今年は2年生が参加し、盛大に挙行政することができました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。



学校長式辞



今年初めに発生した能登半島地震から2カ月余りが経過しました。本日ご列席の皆様方とともに、今回の災害でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様へお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

改めて、当たり前のような日常の学校生活を送ることができることへの感謝の想いをもつと同時に、本日、この佳き日に第62回卒業証書授与式をPTA会長小松澤 弘様をはじめとするご来賓の皆様、並びに保護者やご家族の皆様をお迎えして挙行政できますことに、心より御礼申し上げます。

ただいま呼名をされた125名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、卒業生の保護者並びにご家族の皆様方に、教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

(中略)

心も体も大きく成長した3年間だったと思いますが、そうは言っても、まだまだ思春期真っ盛りです。義務教育を終えて、明日からはそれぞれが選んだ道をスタートするわけですが、順風満帆な日々ばかりではないことは、ご存じのとおりです。時には「悩み、傷つき、迷う」ことや、反発したり背中を向けたりすることもあるのではないかと思います。

そんな時、ぜひ、人生の先輩として、大切な家族として、アドバイスしてほしいと思います。お子様のつぶやきに耳を傾け、さりげなく見守りながらも、人生のよき相談相手であってほしいと願っています。そして、誰かとともに、誰かのために頑張れる経験をしてきたお子様が、自分の選んだ道を歩んでいく様子を、すぐ横で伴走しながら見守ってください。

そして、卒業生の皆さんは、行事だけではなく、日々のやるべきことを、ある時は友達同士で、またある時は先生方と、そしてある時は家族と一緒に、乗り越えてきました。これから先、一人きりで、歯を食いしばり、耐えなければならない時期もあるかもしれません。しかし、この五中で過ごした日々を思い返すことで、仲間との経験を生かして乗り切っていけると信じています。未来社会をたくましく生きる皆さんの前途に、幸多かれと願い、式辞といたします。

水戸市立第五中学校長 春原 孝政

送辞

穏やかな日差しが差し込み、春の陽気を感じることができるようになりました。こんなにも暖かく迎えることができる今日の佳き日に、この水戸五中を旅立たれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。



いま、先輩方はどのようなことを思い出されているのでしょうか。この3年間で振り返ってみると、たくさんの人と出会い、多くの貴重な経験をし、友と学び、様々な思い出を作り上げてきたことと思います。そんな先輩方の姿から、私たちは多くのことを学び、成長させていただきました。

(中略)

いま、こうして振り返ってみると、先輩方は常に私たちのお手本であり、目標でした。私たちは、そんな先輩方の姿を忘れず、先輩方が築き上げ、繋げてきてくださった伝統をしっかりと受け継いでいきたいと思います。そして、水戸五中をより良く発展させ、先輩方まで良い評判が届くよう、努力していく覚悟です。

(中略)

明日からは先輩方がいらっしゃらないと思うと寂しく、不安な気持ちがわいてきます。しかし、先輩方に教えていただいたことを胸に、水戸五中をより素晴らしい学校にしていけるよう、在校生一同頑張っていきます。

卒業生の皆さん、本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。

在校生代表 2年 藤枝 奏伍

答辞

時折、やわらかな日差しや頬を撫でるような風に、春の訪れを感じる季節となりました。本日、多くのご来賓、保護者の皆様にお越しいただき、このような盛大な卒業式を挙げていただけたこと、卒業生125名を代表して、お礼を申し上げます。

思い起こせば3年前、少し大きな制服に身を包み、多くの不安と期待を胸に抱きながら、五中生としての第一歩を踏み出しました。

(中略)

ついに、五中の顔として学校を代表していく3年生。クラス一丸となって全力で取り組んだ体育祭。雨で一日順延となりましたが、みんなで考えた種目や係活動をやり遂げ、充実感でいっぱいでした。

京都・奈良への修学旅行。貴重な文化財やスケールの大きな建造物、歴史を感じる街並みに驚くことばかりでした。土砂降りの中の座禅体験。終わった時の、すがすがしい気持ちが忘れられません。

部活動の集大成として、喜びや悔しさに涙した総体。他にも、みんなで作り上げた思い出がたくさんよみがえってきます。

様々なことが中学校最後となり、一日一日を大切に過ごしてきました。そして、自分の将来について考えていくようになりました。

今日は、中学校最後の日であると同時に、新たな未来への始まりの一步だと言えるでしょう。ここまで過ごすことができたのは、先生方と家族のお陰です。

先生方は、私たち一人一人に真剣に向き合ってくれたり、困ったときは手を差し伸べてくれたり、私たちに一生の思い出をくださいました。家族は、私たちのそばにいて、いつも誰よりも親身に見守ってくれました。先生方や友達、そして家族にあらためて感謝を申し上げます。楽しく、充実した3年間をありがとうございました。支えてくださる皆様に背中を押されながら、新たな道へと進んでいきます。

最後に、私たちに関わってくださった方々のご健康とご多幸をお祈りし、水戸五中のさらなる発展を願って、答辞とさせていただきます。

卒業生代表 大沼 莉々果

